

施策 10 学校と家庭・地域等の連携強化

1 これまでの取組みの状況と今後の方向性

【これまでの取組みや成果】

家庭や地域等の力を学校の教育活動に積極的に生かすことができるようにするため、開かれた学校づくりを推進してきました。学校公開週間は、毎年11月1日～7日に全市一斉で実施してきたことから、保護者や地域住民への定着が図られ、年々、学校への訪問者数は増加しています。

また、「福岡市立学校・園ホームページ公開指針」に基づき、各学校・幼稚園の経営方針や年度の目標や重点、学校サポーター会議の内容、教育活動に関する情報などを積極的に公開し、保護者や地域住民に対して説明責任を果たす取組みを行っています。

さらに、協定を結んだ大学から派遣される学生サポーターを活用し、市立学校・幼稚園の教育活動を支援しています。

【課題や求められていること】

学校サポーター会議や学校公開週間の充実が図られ、学校に対する理解は進んでいます。これからは、学校教育目標を家庭・地域等と共有しながら、地域全体で子どもを育てることがより求められており、家庭・地域等との情報共有を一層図り、地域人材や地域資源を活用した教育活動が求められます。

【今後の方向性】

学校教育の目標やめざす児童生徒像を家庭・地域等と共有し、社会全体で児童生徒を育成するため、学校がめざす教育活動の在り方を積極的に情報発信していきます。すべての学校で実施している学校サポーター会議において、学校運営に対する意見や助言をいただくとともに、第三者による学校評価の実施についても検討していきます。

そのほか、コミュニティ・スクールの導入の検討、学生サポーターの活用など、家庭・地域等との連携強化を図っていきます。

主な取組内容

- ① 積極的な情報発信
- ② 地域人材の活用推進

2 評価指標

指標名	指標の概要	対象	現状値 2017(H29)	目標値 2024(R6)
学校情報の公開状況(教育意識調査)	「学校ホームページなどで学校情報を積極的に公開しているか」の設問に対し「よく当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した教員, 保護者の割合	教員	74.1%	80%
		保護者	47.4%	60%
地域人材の活用状況(教育意識調査)	「地域の人材や施設などを活かした教育を工夫している」の設問に対し「よく当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した教員の割合	教員	72.3%	80%



学生サポーターによる
学習指導のサポート



家庭や地域に開かれた
学校づくりを推進する,
学校公開週間

施策 11 資質ある優秀な人材の確保

1 これまでの取組みの状況と今後の方向性

【これまでの取組みや成果】

「求める教員像」を踏まえ、人物重視の採用試験となるよう試験内容の充実を図り、面接評定員の一部に臨床心理士や民間企業の人事担当者を起用し、多面的な人物評価を行うとともに、「授業をつくる力・行う力」「状況に応じた対応力」など実践的な指導力の評定を的確に行うため、「模擬指導」の充実を図りました。また、一般選考とは別に5区分(教職経験者、社会人、スポーツ・芸術、障がい者、教職大学院修了者)で特別選考を実施するなど、社会経験を有する人材や特定分野に秀でた才能豊かな人材の積極的な確保に努めました。

受験者確保の取組みとして、大学での説明会開催や全国の大学・専門学校等へのポスター・リーフレットの配布、ホームページ、市政だよりへの掲載などの広報周知のほか、大量退職に対応するため、平成29年度及び30年度採用の教員採用試験においては、採用試験日程の前倒しを行い、他自治体との併願受験を可能とした結果、必要な教員を確保しました。

【課題や求められていること】

教員の世代間の年齢平準化が図られていない現状に加え、指導力や豊富な経験を有するベテラン教員の大量退職に伴う大量の新規採用が今後も見込まれており、教員全体に占める中堅教員の割合が相対的に低下することから、実践力を有する教員を確保する必要があります。

また、全国的にも教員の大量退職に伴い正規教員を大量採用している自治体が多く、必要な教員の確保に際し、自治体間の競争が激しさを増しており、教員採用の「数」と「質」を着実に確保していく必要があります。

【今後の方向性】

平成31年度採用の教員採用試験から、受験資格の緩和と、受験者の負担軽減及び実践力重視の観点による新たな選考方法として「模擬授業」を導入するなど、試験制度を大幅に変更しており、試験制度のさらなる工夫改善について検討を進めていきます。

また、教員不足への対応と実践力ある教員の確保に向け、効果的な広報活動を行うとともに、福岡市教員育成指標をもとに養成期段階から資質・能力の向上を図るため、大学と連携を図りながら、戦略的な人材確保策を実施していきます。

主な 取組内容

- ① 受験者数の確保に向けた取組み
- ② 資質・能力を備えた教員の採用に向けた取組み

2 評価指標

指標名	指標の概要	対象	現状値 2017(H29)	目標値 2024(R6)
教員採用試験の受験者数の状況(福岡市教育委員会調査)	教員採用試験の競争率(受験者数÷合格者数)の確保	受験者	3.4倍	6.5倍



新規採用教職員
辞令交付式

施策 12 教職員の資質・能力の向上・活性化

1 これまでの取組みの状況と今後の方向性

【これまでの取組みや成果】

学校教育において教職員の果たす役割は極めて大きく、日々の研修を通して、資質・能力の向上・活性化を図ることが求められています。これまで、教職員の資質・能力の向上・活性化をめざし、経験年数や職能、課題に応じた研修を実施してきました。また、若手・中堅教員の指導力向上や、次世代リーダー教員の育成をめざし、大学と連携した調査研究や、受講しやすい夜間の研修講座も実施してきました。さらに、指導主事等による訪問指導や来所相談も実施してきました。

メンタルヘルス対策では、「福岡市立学校教職員心の健康づくり計画」に基づき、専門家派遣による職場研修や、管理職を対象とした研修、復職者支援等を実施してきました。

【課題や求められていること】

学習指導要領改訂による外国語教育の充実やプログラミング教育の導入などの教育課題が多様化・複雑化していることに加え、市民や保護者のニーズも多様化・複雑化しており、これらの課題やニーズに対応できる教職員の指導力向上が必要です。また、大量退職・大量採用に伴い、ベテラン教員から若手教員への教育観・指導技術の継承や、若手教員を指導するミドルリーダーの育成が急務になっています。さらに、教職員のICT活用力の低さや体罰事案の発生なども課題になっています。

メンタルヘルス対策では病気休職者数の推移を踏まえ、中長期的に取り組む必要があります。

【今後の方向性】

平成29年度に策定した「福岡市教員育成指標」に基づいた研修講座の実施や、教員のキャリアステージに応じた管理職による指導・助言、個別の課題やニーズに応じて選択できる研修の充実などにより、資質・能力の向上・活性化に取り組めます。また、授業力向上や校内研修の充実に向けてデジタルコンテンツの開発・配信や、本市の教育をリードしていく教員の育成、大学と連携した教員の養成などに取り組み、様々な教育課題やニーズに対応できるようにします。

さらに、各経験年数研修や職能研修で体罰根絶などの不祥事防止に関する研修を実施することにより、体罰根絶などの不祥事防止に向けた取組みを推進していきます。また、教職員のICT活用力向上を図るため、研修講座におけるICT機器の活用などを推進します。

メンタルヘルス対策では、精神疾患の未然防止、早期発見、再発防止のため「福岡市立学校教職員心の健康づくり計画」に基づき事業を推進します。

主な 取組内容

- ① 資質・能力の向上・活性化を図る研修の充実
- ② 研修・研究の支援・意欲向上の取組み
- ③ メンタルヘルス対策

2 評価指標

指標名	指標の概要	対象	現状値 2017(H29)	目標値 2024(R6)
研修の効果(全国学力・学習状況調査)	「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させているか」の設問に対し、「よくしている」「どちらかといえばしている」と回答した校長の割合	小学校長	89.6%	95%
		中学校長	85.7%	90%
研修の効果(文科学省調査)	「授業中にICTを活用して指導する能力」の設問に対し、「わりにできる」「ややできる」と回答した教員の割合	教員	62.8%	80%
精神疾患による病気休職者の状況(福岡市教育委員会調査)	精神疾患による病気休職者の教職員に占める割合	教職員	0.70%	0.45%



プログラミング教育の導入に向けた、小学校でのプログラミング教育研修



教育センターでの教職員の研修